

町で、移動率は二十%を上廻っています。私、思いますに、交換分合の場合、農道、水路といった集団化附帯事業が、絶対に必要だということですね。それと、計画的に、長期的に集団化に努力することが必要です。

それには、この事業を推進する中心的人物も大切なことでしょう。

行政上の措置という点では、知事が集団化に熱心で、たしか三十五年の移動県政相談の時でした、集団化事業については案をもっているという答弁でしたが、三十六年には、県に集団化整備係という専門の係が設けられましたし、集団化の協議会にしても、最近では参加者五十人以上という盛況ぶり、誠に結構なことだと思います。

また、昭和三十七年の農地集団化九州大会には、知事も出席して、非常に建設的な意見を述べられ、その年から単独県費による附帯事業の予算ができました。これが、非常に効果をあげているように思います。

(森木) 附帯事業は有難いですな。



合理的な機械化をはかることが大切では…。

—— 集団化のねらいのひとつとして、

しても、県の行政指導により一市町村一土地改良区に合併し、強力なものにする必要があるように思います。

(大和) 事業主体を何にするかは、一長一短あって、一概には言えないと思うんですが、新たに土地改良区を新設することとはどうだろうか。集団化事業をやっている間は補助金もあって運営できても、終了と同時に処理に困ることになり、融資の償還団体としてだけ存続するには経



労働力の節減ということがあるわけ

すが、婦人の立場からの体験を…。

農村生活を豊かに、明るく



物心ともゆたかな農家にしたいもの…

(岡本) 私どものところは、米プラス乳牛、米プラス養蚕の自立農家を目標として、基盤整備を計画したのですが、当初は、「水利もよく、反収も高いのに、ほ場整備は必要ない」という婦人層の反対意見もありました。それで、農業所得と給与所得との格差の問題と過重労働の問題とをとりあげて、説得に努めたわけですね。今の農家の実情では、例えば、生活改善の講習会などで料理を習い、結末、金と暇がなければ作れないです。また、金と暇がない故に家庭内のいざこざが多いという、豊かな家庭生活にはほど遠い実情でございます。

このようなことを訴えまして、ようやく昨年、構造改善事業によるほ場整備にとりかかりまして、昨年三十鈴の工事・配分を終りました。心配されました反収の減もなく、かえって増収になり、農道も小型の自動車で作作できるようなりまして、ちょっとしたドライブ気分

だ、などとしやれこんでおります。三年計画を二年に短縮してやることになったほどで、今年も円滑にいくだろうと思っております。

—— 現在のところ、市町村が表面に出しておりますが、資金、啓蒙の関係で、農協の協力が必要と思われませんか。(増田) 同感です。今後、農協が第一線に加わって進むべきでしょう。

事業主体の強化も

(大和) これまで、農協は経済団体としての事業活動が精いっぱい、指導まで手が伸びなかったため、一応市町村が主体のようになっていたが、農協合併が進んで、強化されると、農地集団化事業にも、手が伸ばされると思います。

—— 来年度から、集団化第二次計画として交換分合や農道を作りたいと思っておりますが、工事の関係もあるので、土地改良区でやるのが一番適当なように思っています。しかし、農地行政は何とんでも農業委員会が詳しいので、指導啓蒙、登記事務など協力をお願いしたいわけです。いずれにせよ、役場、農協、土地改良区などの連けがないとうまく行かないと思います。そして、土地改良区に

新入学の児童を交通事故から守る運動

■ 子供の交通事故がふえています。始めて学校へ通う一年生、保育園や幼稚園に入る子供たちを、交通事故の危険から守って下さい。

費の面でマイナスだと思えます。現在あるものを強化する形で実施することなら結構だが。

でなければ、実質的に農家組合などが中心となって、農協などが形式的な事業主体になるという手もあると思います。

(坂本) 県計画では、集団化を強力に推進することになっているようですが、最近では、千五百町歩から二千町歩程度しかできていないようで、もっと力を入れて、早急に県全体の農地集団化をはかるべきではないでしょうか。集団化に附帯事業を併せるといふ知事のアイデアは

耕地集団化と作物集団化と

(増田) 私のところも、さし当り百二十四町歩の基盤整備を考えていますが、集団化を前提としております。問題は、区画整理地区内の桑園です。桑とタバコの競合の問題、それからタバコと他作物との薬剤散布が影響し合う問題などがあるため、桑園を山手に集団化し、その成長と併行してほ場の整備を考えて行きたいと思っております。

ここに、農地集団化が所得に及ぼした影響についての面白いデータがありますのでご紹介しましょうか。機械化実験集落で、昭和三十八年に乳牛の生産性について調べたものですが、乳牛の一日当たり平均労働報酬が、久米部落五百七十四円、福本部落四百四十七円、富原部落は

よかった、もっと伸ばしてもらいたいと思っております。特に、矢部、天草などの山間地域は、平坦部と比べて数倍も条件が悪いのですから、基準を変更してでも単附帯事業をお願いしたいですね。(森木) 私の所で、第二次集団化計画を立てたのは、労力の節約を農道の拡充にせまられたからです。冬はのり、夏は農業で、しかも車を使う必要が非常にふえてきたわけで、この際、徹底した集団化と農道整備をしたいと考えたからです。で、県費補助と、三分五厘融資が仰げれば、これが一番近道だと思っております。

千三百六十七円となっております。これで見ると富原部落がとび抜けて高いわけですが、富原部落というのは、旧飛行場跡でして、一人の農地が、一ほ場五反以上で集団化しているところなんです。これが大きな要因となっているわけですね。ただ、これも集団化はしていませんが、一戸当り一町二町の農地を所有して、しかもめいめいが機械を入れているため、必ずしも全体の人がもうかっているとはいえないと思っております。

機械は効率的に

—— 機械のことが増えましたが、機械化は相当進んでも、農地が分散して思

うように使えないという不自然な状態では困るわけですね。(増田) 現在の日本では、動力農機の馬力数は、反当〇・五馬力といわれています。ところが、アメリカでも大体同様に反当〇・五馬力といわれます。一人当り五反の日本で、一人当り二十七町というアメリカと同馬力の機械を使っているのは、とても国際競争を勝ち抜いていくことはむずかしいわけで、いわゆる機械化貧乏にもなりかねないですね。農地の集団化、そして、機械の共同利用が、今後日本の農業の大きな課題ではないかと思っております。

(森木) 私どもの所で、昭和三十二年に百三十二頭いた使役牛馬が、三十六年には三十五頭になりました。そして、耕うん機は、小型から中型へ大型へと変っていく傾向にあります。運搬用に軽四輪がふえています。

農地の集団化をすれば、これ以上の機械導入は当面必要ないと思っております。機械化は絶対に必要なことです。そして機械化が必要だから農地、耕作を集団とし、農地や農道を整備しなければならぬのです。要するに合理的な機械利用が大切なことだと思っております。

大きな推進力、婦人の声

(岡本) たしかに以前は、耕耘機は入っ